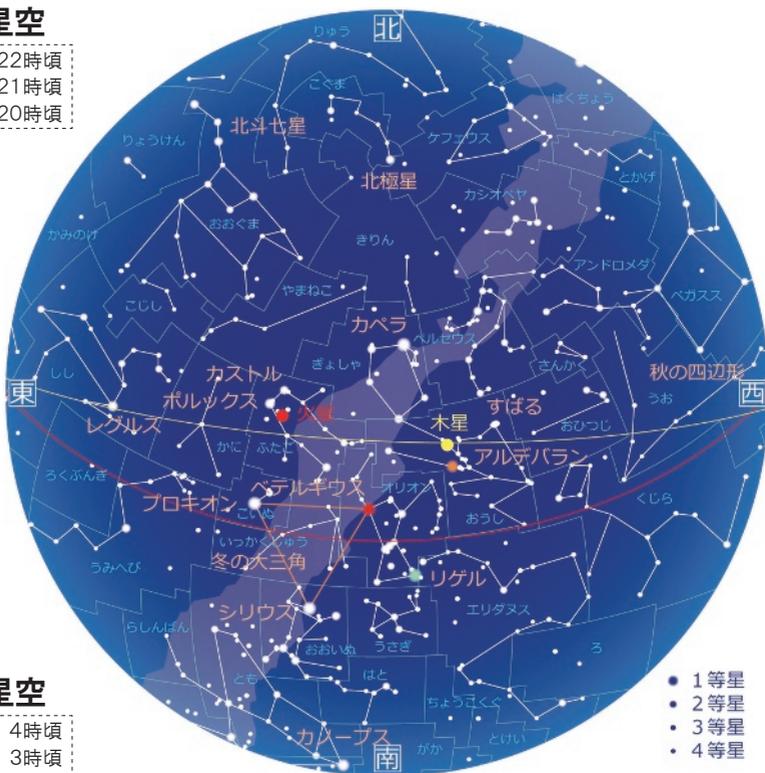


# 星空ガイド 1月16日～2月15日

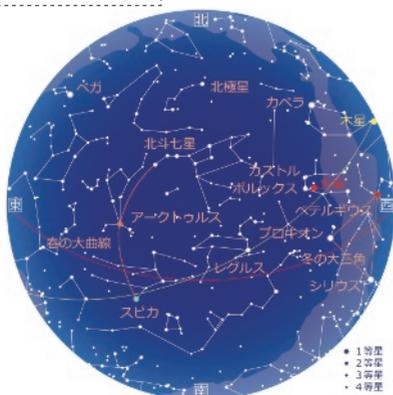
## よいの星空

1月16日22時頃  
2月 1日21時頃  
15日20時頃



## あけの星空

1月16日 4時頃  
2月 1日 3時頃  
15日 2時頃



【太陽と月の出入り(大阪)】

月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
1	16	木	7:04	17:11	19:31	8:41	16.2
	21	火	7:02	17:16	--:--	10:44	21.2
	26	日	7:00	17:21	4:21	13:42	26.2
2	1	土	6:56	17:27	8:39	20:28	2.6
	6	木	6:52	17:32	11:19	1:08	7.6
	11	火	6:47	17:37	16:12	6:04	12.6
	15	土	6:43	17:40	20:15	8:00	16.6

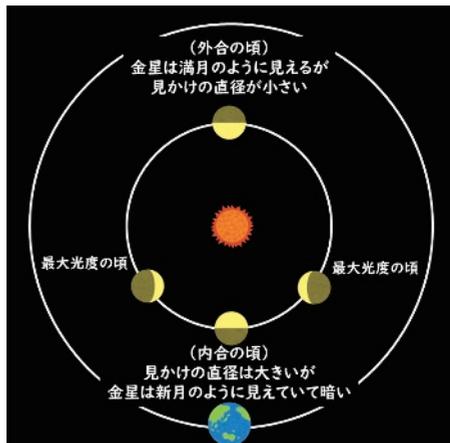
※惑星は2025年2月1日の位置です。

## 最大光度となる金星

昨年夏頃から夕方の西の空で輝いている金星が、2月15日に最大光度を迎えます。

金星は地球よりも内側を公転している惑星なので、望遠鏡で観察すると月のように満ち欠けして見えています。ということは、最大光度の頃の金星を望遠鏡で見ると、月が一番明るく見えるときである「満月」のように見えているのでしょうか。実は、最大光度の頃の金星は三日月のように細く見えているのです。

太陽に照らされているところが少ないのにどうして明るく見えるのか、それには地球と金星との距離が関係しています。金星が満月のように見えるのは、地球から見て金星が太陽を挟んで反対側の位置にあるとき(外合)のころです。ですが、この頃は地球から金星までの距離が遠くなるので見かけの直径が小さくなってしまいます。しかし、逆に地球と金星



地球からの金星の見え方

の最接近(内合)のころは金星は新月のようになっていて暗く見えています。(そもそも外合・内合の頃は太陽と金星が同じ方向に見えるので、観察は非常に危険かつ難しくなります。) そのため、金星と地球の距離が程よく近くて、明るい部分も程よく見えている、「三日月」のような見え方のときに金星は最大光度を迎えるのです。

金星の満ち欠けの観察には望遠鏡が必要ですが、明るく輝く金星は肉眼でも簡単に見つけることができます。観察しやすい夕方の西の空で金星が見られるのは3月上旬まで。今のうちに明るい金星を堪能しておきましょう。

野村 美月(科学館学芸員)

### [こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
1	16	木	火星が衝
	18	土	金星と土星が並ぶ
	20	月	大寒(太陽黄経300°)
	22	水	●下弦(6時)
	25	土	明け方に月とアンタレスが並ぶ
	28	火	変光星しし座R(4.4~11.3等)の極大
	29	水	●新月(22時) 旧正月/春節(中国)

月	日	曜	主な天文現象など
2	1	土	月と土星が並ぶ/白屋の土星食(12時43分~13時14分ごろ)
	2	日	節分/月と金星がならぶ
	3	月	立春(太陽黄経315°)
	5	水	●上弦(17時)
	6	木	白屋のすばる食(14時~16時)
	7	金	月と木星がならぶ
	10	月	月と火星が非常に接近
	12	水	○満月(23時)/天王星が東矩
	15	土	金星が最大光度